

ワークシート・資料編

1 ワークシート

19世紀後半～20世紀前半の日系アメリカ人 ～移民・統合と分化～ ワークシート I

1 日系移民の誕生からアメリカ合衆国における移民排斥までの歴史

(1) 日系移民はどの地域の出身者が多かったのか？また、なぜ、移民となったのだろうか？

問1 右の表を見て、20世紀初頭に海外移民が多かった県 <県別の移民数>
に共通する点は次のどれと推測されるか？

(1899-1932年の上位5県)

- () ① 戊辰戦争で江戸幕府側についた地域が多く、明治以降も政治的に冷遇されていた。
- () ② 山がちで平野が少なく、人口が増加しても水田面積を拡大しにくい地域であった。
- () ③ 宗教的に政府の政策に従わない人々が多く、宗教的自由を求めて移民となる人が多かった。
- () ④ 大都市があり、海外渡航が可能な富裕層が多く住む地域で会った。

順位	県	累計人数(人)	全国比(%)
1	広島	92,716	16.8
2	熊本	61,400	11.1
3	沖縄	55,706	10.1
4	福岡	44,793	8.1
5	山口	42,842	7.8

→つまり、日本から海外への移民は 政治的 ・ 経済的 ・ 宗教的 理由が多い。
→移民先にうまく定着できなかった場合、帰国は・・・ 容易 ・ 容易ではない と考えられる。

(2) 日系移民はどこへ向かったのだろうか？

<日本人移民の地域別渡航者数 (1868～1941)>

地域	人数
ハワイ	230,547
ブラジル	188,715
アメリカ合衆国(本土)	107,253
フィリピン	53,115
カナダ	35,777
ペルー	33,070
メキシコ	14,667

日本人移民の渡航先は、時代によって変化している。「アメリカ合衆国」「中南米」「ハワイ」3つの地域への渡航者が多い時期を古い年代から順に並べると以下ようになる。

ハワイ→①→アメリカ合衆国→②→中南米

問2 右上の文のように、日本人移民の渡航先が変化した理由を、下の略年表から読み取りなさい。

①の時期の変化 (ハワイがアメリカ合衆国に併合された)

②の時期の変化 (アメリカ合衆国で排日移民法が制定された)

<ハワイとアメリカ合衆国への日系移民に関するできごと>

西暦	おもなできごと
1868	最初の日系人労働者153名(「元年者」)がハワイに渡る
1886	ハワイへの移民が公式に許可 →1894年に民間に委託されるまで、約29,000人の官約移民がハワイへ渡る
1898	アメリカ合衆国が ハワイを併合 →日本人を含むアジア移民の一世は法律上、アメリカ国籍を取得できず
1904-05	日露戦争 →アメリカ合衆国で日本への警戒感が高まる ↓
1907	日米紳士協定 ～日本政府は対米移民を自主的に制限
1917	識字テスト移民法 ⇒ワークシート I (5)
1924	排日移民法 ～アメリカ合衆国において、日本人移民が完全に禁止

(3) 日系移民はどんな仕事に就いたのだろうか？

- ・ハワイ→サトウキビ・プランテーションでの契約労働者
1902年にはサトウキビ労働者の70%が日本人移民で占められるほどに
1924年の排日移民法成立まで約22万人がハワイへ渡る
- ・アメリカ本土・カナダ→農漁業・林業・鉱山採掘・鉄道保線の仕事 ～ハワイより収入が多い
- ・南米→農業・林業 ～北米への移民制限後に増加

問3 日系移民の生活は、豊かだと言えるだろうか？仕事の内容から想像してみよう。

- () ① 日本での生活より、経済的に苦しい。
- () ② 日本での生活より豊かだが、裕福とは言えない。
- () ③ 日本での生活より豊かで、移住先でも富裕層に属することができた。

(4)映像読み取り①:1920年代のカリフォルニアの日系人社会

⇒映像の概要は「2 資料」に記載

問4 カリフォルニアの「アメリカ人」(白人)は日系移民をどのように見ていると言えるか?

- () ① 日系移民は、アメリカ合衆国の文化を受け入れようとせず、文化的に異質な存在である。
- () ② 日系移民は、金儲けばかりしていて、経済力を背景に合衆国の政治に介入している。
- () ③ 日系移民は、安い賃金で働き、アメリカ人の仕事を奪っている。

(5)アメリカ合衆国における移民の排斥

＜アメリカの読み書きテストによる移民制限の提案（1896年→1917年に識字テスト移民法成立）＞

本法案…の第1項は自国語ないし他国語のいずれかで読み書きできないすべての移民を我が国から締め出すものであります。…この読み書きテストは…英語圏からの移民ないしドイツ人、スカンディナ비아人、フランス人には…まったく負担にならないであります。言い換えれば、本テストによってもっとも影響を受ける人種は、わが国への移住がここ20年のあいだに始まり、法外な割合にまで急増した人種、または…、合衆国の人民の大多数にとってもっとも異質である人種であります。…識字率がスラムの人口と、また外国生まれないし両親が外国生まれの犯罪者、貧民、少年非行の数と平行していること…またわが国にもたらず金がもっとも少なく、またもっともすみやかに公私の慈善に扶養を頼るに至る移民であること、が判明しております。(木下尚一ほか編『資料が語るアメリカ』)

問5 上記(4)(5)より、アメリカが必要としている移民と、できれば受け入れたくない移民はどのような人々であるといっているだろうか。

必要としている移民 (英語の読み書きができ、アメリカに利益をもたらす者)

できれば受け入れたくない移民 (英語が読み書きできず、アメリカ社会と異質な価値観の者)

2 第二次世界大戦と日系人

(1)映像読み取り②:太平洋戦争開戦と日系アメリカ人 ⇒映像の概要は「2 資料」に記載

問6 日系人女性は、どのような気持ちであったと考えられるか?

- () ① 戦争が始まったので、自分たちは敵国の人間として殺されても仕方がない。
- () ② 戦争中とはいえ、衣食住の保証がなされているので、安心だ。
- () ③ 自分たちはアメリカ合衆国に敵対する意思はないが、それが認められないことが残念だ。

(2)映像読み取り③:アメリカにおける日系人排斥と日本人観

⇒映像の概要は「2 資料」に記載

問7 『ニューズウィーク』と映画「汝の敵 日本を知れ」はそれぞれどのような主張をしているだろうか?

- () ① 『ニューズウィーク』誌は、第二次世界大戦の目的は、人種間の優劣を争うものであってはいけないと訴えている。
- () ② 『ニューズウィーク』誌は、ドイツ系やイタリア系のアメリカ人も強制収容すべきだと訴えている。
- () ③ 映画「汝の敵 日本を知れ」は、日本人の勤勉性や我慢強さを称え、見習うべきだと呼びかけている。
- () ④ 映画「汝の敵 日本を知れ」は、アメリカ人と違って、個人の権利よりも国家への貢献を重視しているとの見方を示している。

(3)第二次世界大戦中の日系アメリカ人に関する基礎知識

トピックス1 ハワイとアメリカ合衆国本土での日系移民排斥の違い

	ハワイ	アメリカ合衆国本土
強制収容所への収容	特に危険と目された1,000人以上がハワイなど8カ所に収容	太平洋岸地域に住む日系人のほぼ全員11,600人が10カ所に収容
日系人の状況	1940年の時点で、約15,800人(ハワイの全住民の約37.3%) なかには経済的成功を収めた者も一世はアメリカ国籍なし=参政権なし ハワイ生まれの二世はアメリカ国籍を取得することが可能	1885年から1924年までに約18万人が移住。1910年時点では、太平洋岸地域での人口の1.5%ほど。 1940年の時点では2/3ほどがアメリカ生まれの二世・三世で、いずれもアメリカの市民権をもつ。

トピックス2 大統領令9066号とは

1942年2月にアメリカ合衆国大統領フランクリン・ローズヴェルトが署名。日米開戦後の諜報活動の阻止や軍事活動への妨害阻止を名目として、特定地域を軍管理地域に指定する権限が陸軍長官へ与えられ、日系人の強制収容へ道を開くことになった。合衆国西海岸が軍管理地域に指定され、「敵となる外国に祖先を持つ者」である日系人が立ち退きの対象となった。指定地域外の東海岸居住の日系人は、本大統領令の対象とはなっていない。また、ドイツ系移民のうち11,000人、イタリア系移民は3,000人が収容された。

問8 日系人の強制収容は、アメリカ合衆国の西海岸地域に多い。では、ハワイや東海岸地域では少なかったのはなぜだろうか？

ハワイ（ **日系人の人口が多すぎるため、強制収容しきれなかった** ）

東海岸（ **戦場となっている太平洋から離れており、軍事活動への妨害の危険性が少なかった** ）

トピックス3 強制収容と日系アメリカ人部隊結成に対する日系アメリカ人の反応は？

※フランクリン=ローズヴェルトは、1942年にヨーロッパ戦線での兵力不足を補うため、日系二世の兵役復帰を認める形で、日系アメリカ人部隊（第442連隊戦闘部隊）の結成を決定。

居住地	日系アメリカ人部隊の結成に対する反応
カリフォルニア	10万人弱～アメリカ合衆国に忠誠を尽くす宣言をするが、大統領の方針転換には賛否が分かれる →当初は3,000人の募集に1,181名が日系アメリカ人部隊に志願したのみ 18,789人～一世を中心に、忠誠宣言を拒否して専用の収容所に集められる →約1/4は第二次世界大戦中と戦後に日本へ帰国
ハワイ	志願兵募集の知らせを受け、1万名近い二世が従軍を志願 →当初の予定の倍近い2,686名が入隊
参考： 日本に帰国した 約2万人の日系 二世のその後	例1 語学や技術を認められ、翻訳や新兵器の開発に携わる者 例2 アメリカ国籍を破棄し、日本兵となる者（3,000～5,000人） 例3 アメリカのスパイと疑われ、監視の対象となり、ひっそりと暮らす者 例4 監視の重圧から、日本軍に入り、特攻隊に志願する者

<西海岸地域に居住し、アメリカ軍兵士となったある匿名の日系人の証言>

出征前、収容所に家族を訪ねました。戦地に行くと言えど、母は膝からくずれおれて泣きました。きっと私が戦死すると思ったのでしょうか。日系兵は「弾よけ」と噂されていましたから。みすばらしいバラック（注:小屋）で泣いていた母…私にとっては、真珠湾の時より悲しい思い出です。

<ハワイに居住し、アメリカ軍兵士となったダニエル=イノウエの証言>

大学の講堂に陸軍大佐が来て、二世に志願資格があると発表しました。その途端、学生は雄叫びを上げると、一団となって徴兵局へ走り出しました。（中略）真珠湾上空に日の丸を付けた一番機が現れた瞬間から、我々二世は、背中にびっしりと罪悪感を背負った。それを返上するために志願したのです。

問9 西海岸地域のカリフォルニアに住む日系アメリカ人と、ハワイに住む日系アメリカ人で兵士となることについての考え方が異なるのは、なぜだろうか？自分の言葉でまとめてみよう。

予想される解答例
西海岸では、日系人の強制収容が行われ、差別をされているという感覚が強かったが、ハワイでは強制収容はあまり行われず、二世にはアメリカ人意識が強かった。

トピックス4 日系アメリカ人の兵士は第二次世界大戦でどのような役割を果たした？

- ①陸軍の日系人部隊（第442連隊戦闘団）などに配属され、ヨーロッパでドイツ軍と戦う
- ②語学兵として、日本との戦いで通訳や日本人への降伏の呼びかけを行う
- ③太平洋戦争後のGHQの通訳として占領政策を行う

トピックス5 日系アメリカ人部隊はヨーロッパで、大きな活躍を見せるが、その理由は？

<従軍したダニエル=イノウエの証言>

帰するところ、名誉の問題と言うことです。（中略）私は周囲の二世に尋ねたんです、なぜ志願したのかと。すると誰もが例外なく、「家名を汚すな」と答えました。（中略）私たちは、出世や成功の夢がない貧乏所帯のせがれです。でも、なんとか逆境を切り抜きたいと、歯を食いしばって生きてきた。並みの努力では這い上がれないことを、二世は知っていました。

19世紀後半～20世紀前半の日系アメリカ人 ～移民・統合と分化～ ワークシートII

3 二人の日系アメリカ人の生き方（自宅学習用課題）

ダニエル・ケン・イノウエ (Daniel Ken Inouye, 日本名：井上 建) (1924-2012)		フレッド・トヨサブロー・コレマツ (Fred Toyosaburo Korematsu, 日本名：是松 豊三郎) (1919-2005)
父は福岡県，母は広島県出身。父は1899年に <u>ハワイ</u> に移住。	両親	両親は福岡県出身。1905年にアメリカに渡り， <u>カリフォルニア州</u> で園芸場を営む。
ホノルルで育ち，15歳で結婚。 ハワイ大学に進学し，医者を目指す。	戦前	高校卒業後，働きながら大学に通おうとするが，仕事と学業の両立は難しく，中退。 家業を手伝う。
1941年（太平洋戦争開戦後） ・ハワイでの医療支援活動に志願。	第二次 世界大戦 前半	1941年（太平洋戦争開戦前） ・軍への入隊を申し込むが，日系人であることを理由に拒否される。 →少しでも国防への貢献がしたいと考え，溶接工として働くが，日系人であることを理由に3度解雇される。
フランクリン＝ローズヴェルトが， 大統領令9066号 へ署名（1942. 2） →カリフォルニアなどアメリカ西海岸に住む <u>日系アメリカ人の強制収容所への収容が行われる。</u> （ハワイは一部の日系人のみ収容）		
・アメリカ人としての忠誠心を示すために <u>アメリカ軍に志願。</u> 1943年～ ・ 陸軍の日系人部隊 （第442連隊戦闘団）に配属され， <u>ヨーロッパで戦う。</u> 1945年 ・イタリアにおけるドイツとの戦いで活躍するも， <u>右腕切断などの重傷を負う。</u> ・1年8ヶ月に及ぶ入院の後，ハワイに帰郷。 →数々の勲章を授与され，日系アメリカ人社会だけでなくアメリカ陸軍の英雄に。	第二次 世界大戦 後半	1942年 ・収容所へ入る命令に従わず，逮捕される。 →アメリカ自由人権協会の提案を受け，日系アメリカ人抑留の違法性を裁判所に訴える。 （コレマツ対アメリカ合衆国事件） ・大統領令9066号に関する法令違反で， <u>有罪判決を受ける。</u> ⇒下記8 →「この国のためなら兵役に服して，いつでも，どこでも，誰とでも戦えます」とアメリカに忠誠を誓う宣誓をし，禁固刑ではなく5年の保護観察におかれる。 →その後，最高裁判所まで控訴するが，有罪判決は覆らず。
1947年 ・陸軍大尉として名誉除隊。 ・負傷により医学の道をあきらめ，大学で政治学を専攻後，政界へ。 1954年 ・ハワイ議会の議員に当選 1959年 ・民主党から立候補し，ハワイ州選出の連邦下院議員に当選 →アメリカ初の日系人議員に ⇒下記6 1963年 ・上院議員に	戦後	・強制収容所で労働に従事した後，溶接工や製図工として働く。 ・結婚し，2児を得る。子ども達に戦争中の体験は語らず，休日は教会などでボランティア活動をする生活を送った。犯罪者としての前科があることから，大企業や公的な役職には就けなかった。 (1960年代より，公民権運動や女性差別撤廃運動・先住民の権利回復運動が高揚する中で，徐々に日系アメリカ人の名誉回復を求める動きがおこる)
・民主党の上院議員として活躍。 日系アメリカ人の支援や結束強化に尽力。 ・日米貿易摩擦では，対日批判の急先鋒の立場をとるが，慰安婦問題の沈静化や広島とハワイの友好提携にも尽力。	1980年代 以降	1980～1988年 ・カーター大統領の再調査命令により，合衆国議会において戦時中の強制収容に対する謝罪と補償が制定される。 1982～1983年 ・コレマツの再審請求が認められ， <u>有罪判決は無効との決定を得る。</u> ⇒下記9 1988年 ・レーガン大統領が「市民の自由法（日系アメリカ人補償法）」に署名し，強制収容を受けた日系人に対して謝罪
2000年 ・軍人に贈られる最高位の勲章である <u>名誉勲章</u> を受章。	晩年 ～没後	1998年 ・アメリカにおける文民向けの最高位の勲章である <u>大統領自由勲章</u> を受章

